

白河市指定重要文化財(史跡)

伝)金売吉次兄弟の墓

指定年月日 平成八年三月二十九日

所在地 白河市白坂字皮籠二七・二八・四

所有者・管理者 白河市 財務省

指定面積 一一六四²m

三基の石塔は、中央が吉次、左が吉内、右が吉六の、いわゆる金売吉次三兄弟の墓と伝えられています。

石塔は、白河石(安山岩質凝灰岩)で作られた宝篋印塔(ほつきょういんとつ)ですが、後世に積み替えられたため、別種の石造塔の一部が混じっています。紀年銘などがみられず、明確な製作年代は特定できませんが、製作技法の特徴から室町時代頃の建立と推定されます。

承安四年(一一七四)吉次兄弟が砂金を交易して、奥州平泉と京とを往来する途中、ここで群盗に襲われて殺害され、里人がそれを憐みこの地に葬り供養したと伝えられています。また、後に源義経がここに立ち寄り、吉次兄弟の霊を弔い、近くの八幡宮に合祀したと伝えられています。

石塔の石囲いは、元治元年(一八六四)七月の建立です。この三基の石塔は、本来の形状を完全には留めていませんが、土地の人々から吉次様の墓として信仰されてきた石造文化財です。